令和７年12月20日　2025年　第60号

いずみ

袖ケ浦学園

CONTENTS

いずみフェス ・・・

いずみフェス

11月9日（日）、いずみフェスを開催しました。上司からの一言「キッチンカーを呼ぼう」との特命を受け、「いずみフェスプロジェクトＸ」が始動したのが5月でした。「皆さんを楽しませよう」をコンセプトにスタッフ一同、幾多の苦難と難題を乗り越え、いずみフェスを迎える事ができました。

当日の天候は生憎の雨でしたが、保護者様を含め、多くの来園者を迎えてのイベントになりました。屋外からはキッチンカーからの魅惑的な香りが漂う中、いずみフェスを開会しました。

始めに袖ケ浦市のマスコットキャラクター「ガウラ」と「ソデリー」が登場し、会場は大歓声に包まれました。その後、お祭り気分が最高潮に達したところで、待ちに待った食事の時間になりました。皆さまそれぞれのキッチンカーに出向き、お弁当やデザートなどを堪能されていました。感想を聞くまでもなく皆さまの笑顔からも、お食事に満足している様子が伺えました。

食事後には、地域でボランティア活動をされている大道芸「まっちゃん・まーちゃん」によるバルーンアートと手品や、くじ引きなどのイベントで盛り上がりました。皆さまが楽しまれている姿を見て、目標であったいずみフェスの大成功を確信しました。

今後もこのようなイベントを企画し、利用者の皆さまが心豊かに過ごせますよう努めていきたいと思います。

行事総括　斉藤　美之

ハロウィン

10 月 31 日(金)、ハロウィンパーティーを開催しました。

利用者の皆さまに仮装を楽しんでいただき、「トリックオアトリート」の合言葉と共にお菓子を受け取りました。受け取ったお菓子を召し上がり、満足そうな様子が見られました。

私自身初めての行事総括でしたが、行事終了後は、笑顔で感謝を伝えてくださる利用者様もおられ、楽しんでいただけたようで、安心しました。終始笑顔があふれ、楽しいハロウィンパーティーとなりました。

行事総括　篠原　樹斗

袖ケ浦学園　チャレンジ班　　活動風景

今年度は、活動が充実した一年となり、皆さまそれぞれに合った自立課題に集中して取り組むことが出来ました。また、メンバーの入れ替え等もあったなか、定期的な課題の更新を行い、飽きることなく活動に取り組める環境を整備し、皆さまのやる気を引き出す事に注力しました。

利用者様一人ひとりの自主性を重んじ、集中して課題に取り組めるよう、これからもサポートしてまいります。

篠原　樹斗

袖ケ浦学園　ステップ班　　活動風景

ステップ班の皆さまは、日中活動を通じて、個別の課題や歩行運動に取り組まれ、充実した日々を過ごしていらっしゃいます。

課題を更新する際に、難易度を上げ、新しいことに挑戦していただきたいと思います。　　川口　大洋

袖ケ浦学園　にっこり班　　活動中にテクテク歩いて

今年も残すところ１か月を切り、綺麗な紅葉から寒さが一段と厳しくなる時期になりましたが、にっこり班の皆さまはとても元気に過ごされています。音楽を流し、利用者様同士や職員と手をつなぎながら歩行運動を中心に活動をおこなっています。冬の寒さを弾き返すほどの大きな声で歌う方や、ゆっくり歩いてお話をしたり笑ったりと、活動中はとても微笑ましい時間が流れています。利用者の皆さまに体調不良が今のところ出ていないのは、元気の源として、歩くことを継続し、たくさんの笑顔が溢れているからではないかと思っています。　　班長　西井　樹

袖ケ浦学園　ほほえみ班　　食べることが大好きです♡

今年度の活動では、歩行運動や YouTube で体操や音楽に合わせて身体を動かす機会を設けておりますが、ほほえみ班の皆さまの楽しみと言えば、やはり食べることのようです。

食事会では、ココイチのカレーライスや、好きなお菓子や生クリームをトッピングしたパフェを作り、楽しみました。飾り付けに個性が溢れていて、とても嬉しい気持ちになりました。

いよいよやってきた冬将軍！筋力向上に向けて、身体を動かし、寒さやウイルスに負けない体づくりをしたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。　　班長　高橋　世奈

グループホーム　絆　　デイキャンプ

11 月 12 日（水）、亀山湖畔の稲ヶ崎キャンプ場へデイキャンプに出かけました。天候に恵まれ、美しい紅葉の下で秋の深まりを感じる一日となりました。

昼食は焼きたてのピザやステーキ、温かいスープを満喫し、食後には牛乳パックでホットドックを作る「カートンドック」や、マシュマロを炙ってクッキーで挟む「スモア」作りに挑戦しました。

豊かな自然の中で、普段とは違う特別な時間を過ごすことができ、思い出に残る行事となりました。

高野　啓介

地域連携推進会議

今年度から義務化された地域連携推進会議を、10 月 22 日（水）に「袖ケ浦学園」、11 月 18 日（火）に「グループホーム　絆」で開催いたしました。

「袖ケ浦学園」では、会議の目的や今年度の重点目標、日中活動等について説明後、施設見学と意見交換を実施し、委員の皆さまからは、開所当初から利用されている最高齢の方を含む高齢化への取り組みに関する質問や、見学時に利用者と職員が和やかに過ごすアットホームな雰囲気が伝わったとの感想をいただきました。また、週 6 回の入浴支援についても好印象との声がありました。今回の会議を通じ、地域との交流をより深めていきたいと考えています。

袖ケ浦学園施設長
平島吉隆

「グループホーム絆」では、会議の目的や支援方針の説明後、施設見学と意見交換を実施し、参加者からは「明るく居心地が良い」「外出支援がストレス解消につながる」との声をいただきました。また、世話人確保の難しさや研修方法について質問があり、強度行動障害支援者養成研修を受講した職員が OJT を通じて専門性向上に努めていることが報告されました。地域交流では清掃活動や公民館まつりへの参加に加え、今後は公民館や自治会との連携を深め、地域理解を広げていく必要性が確認されました。

グループホーム絆管理者
高野啓介

職員コラム　～「サブ４」を目指して～　完結

私が入職して、初めて職員コラムを書いたのが、第 28 号でした。その際に地元の大会である「ちばアクアラインマラソン」で“サブ 4”(4 時間以内でのゴール)を目指すと書かせていただきました。

他の大会では“サブ 4”をクリアしつつも、この大会では過去 5 回どうしてもクリアすることが出来ませんでしたが、昨年参加した 6 回目の挑戦で、やっとクリアをすることが出来ました。

タイムは、3 時間 58 分 52 秒とギリギリでした。前半は調子が良く貯金を作ったものの、やはり 30 キロの壁があり、残り 5 キロから両足に痙攣が起き、何度も無理かと諦めようと思いましたが、なんとか気持ちを奮い立たせ、残り 2 キロあたりから再び足が動くようになったのは、今でも奇跡だと感じています。沿道各地で複数の学園の職員さんが応援して下さったり、利用者の皆さまも千葉テレビの放送を見て応援して下さったりと、たくさんのエネルギーやパワーをもらいました。この場をお借りし改めてお礼申し上げます。

その後は 1 年間ほぼ走っておらず、大会に向けて 8 キロ減量した身体もリバウンドしてしまいました。最近は疲れやすく、身体の不調も出ており、このままではいけないと思い、来年 1 月に 5 キロ(富津市)、ハーフマラソン(市原市)、フルマラソン(館山市)と 3 つの大会にエントリーし、11 月から急ピッチで走れる身体を取り戻そうとしています。自己ベスト更新を最低目標とし、フルはサブ 3.5(3 時間半以内)が目標です。ただ、基本的には楽しむことをモットーに必要以上に練習はしていないので、伸びしろはたくさんあると勝手に思っています。(笑)

来年 11 月の「ちばアクアラインマラソン 2026」も 7 大会連続で出場予定です。　笹生　哲司

職員コラム　朝ドラを楽しむ

ドラマといえば、いまや配信サービスがすっかり主流ですが、私は最近、朝ドラを観るようになりました。以前は夜のドラマをよく観ていましたが、最近は夜になると眠くなってしまい、自然とテレビドラマから離れていました。

朝ドラは、かつては展開が穏やかで物足りないと感じていました。時々ちらっと観ることはあっても、続けて観るほどではありませんでした。ところが、改めてじっくり観てみると、これがなかなか面白いのです。ただし「朝ドラ」と言いつつ、私は朝に観るわけではなく、録画した一週間分を週末にまとめて鑑賞しています。

特に明治から昭和初期が舞台の作品は、興味を引かれます。時代背景に思いを巡らせながら主人公や登場人物に感情移入したり、独特の方言や言い回しに耳を傾けたり。景色や暮らしの様子、衣装など、実際に見たことがないはずのものなのに、どこか懐かしく、同時に新鮮に映ります。束の間、非日常へ連れて行ってくれます。

現在放映中の『ばけばけ』も、これからの展開がとても楽しみです。　柏谷　幸江

新規入所者様の紹介

袖ケ浦学園　石渡（いしわた）　和博（かずひろ）　様

9 月に袖ケ浦学園に入所されました。
好きな物は、電車やバスの乗り物、料理や旅行番組を見ることです。

新入職員の紹介

袖ケ浦学園　髙澤（たかざわ）　美優（みゆ）　生活支援員

9 月に入職いたしました。
利用者の皆さまに、「この人になら話しやすい」と思っていただけるように頑張ります。よろしくお願いいたします。

袖ケ浦学園外壁改修工事

千葉県社会福祉施設等施設整備費国庫補助金の採択を受け、袖ケ浦学園外壁工事をおこないました。
工事中は、ご利用者の皆さまをはじめ、ご来園者様には、ご迷惑をお掛けいたしました。
外観がとても明るくなり、最近の塗装剤は、体感温度が 3℃ほどの違いがあるそうで、少しの差ではありますが、夏は涼しく、冬は暖かく、皆さまが快適に過ごせていただけたらいいなと思います。

【編集後記】

袖ケ浦学園が開設され 26 年が経ち、あちこちの修繕に追われていますが、一番気になっていた外壁の爆裂やひび割れなどを、ようやく修繕でき、ひと安心しています。
また、災害に備えて非常用発電機の設置工事もおこないました。災害が起こらないことを祈る一方、何が起きても対応ができるように万全に備えていきたいと思います。　　吉田　美紀

［広報担当職員］ 吉田（美）・笹生・吉田（将）

社会福祉法人いずみ会

〒299-0205 千葉県袖ケ浦市上泉 1767-21　URL：http://izumi-kai.com

障害者支援施設　袖ケ浦学園　☎0438-75-4585　izumikai@vanilla.ocn.ne.jp

相談支援センター　晴（ハル）　☎0438-97-5118　haru-soudan@kind.ocn.ne.jp

〒299-0236 千葉県袖ケ浦市横田字北上堰 124-1

グループホーム　絆（キズナ）　☎0438-97-7815　kizuna7815@orion.ocn.ne.jp